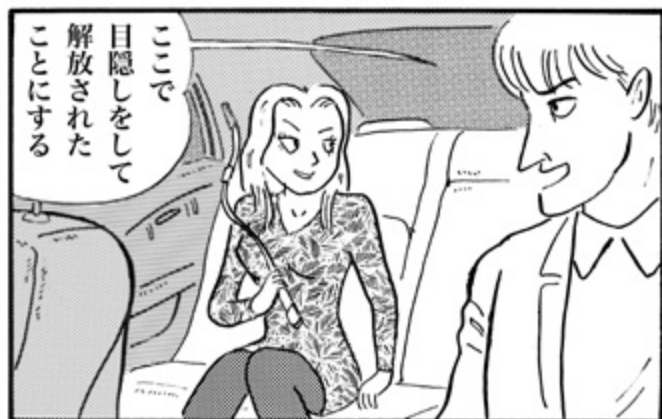
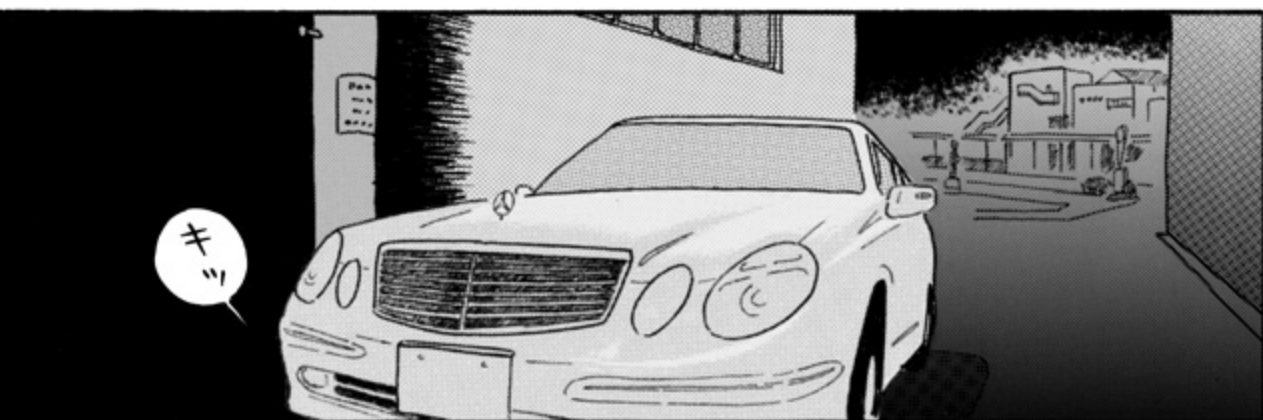
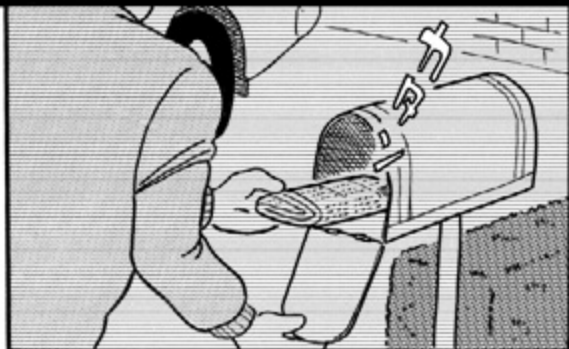
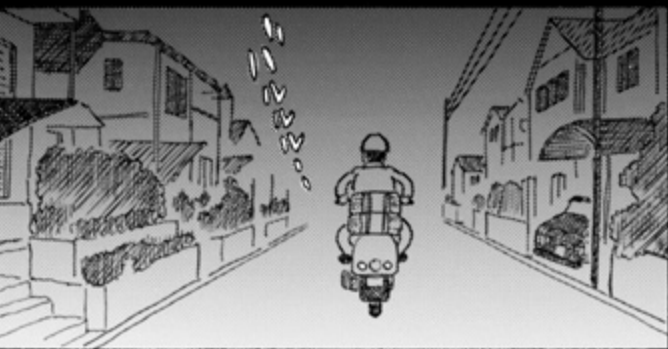


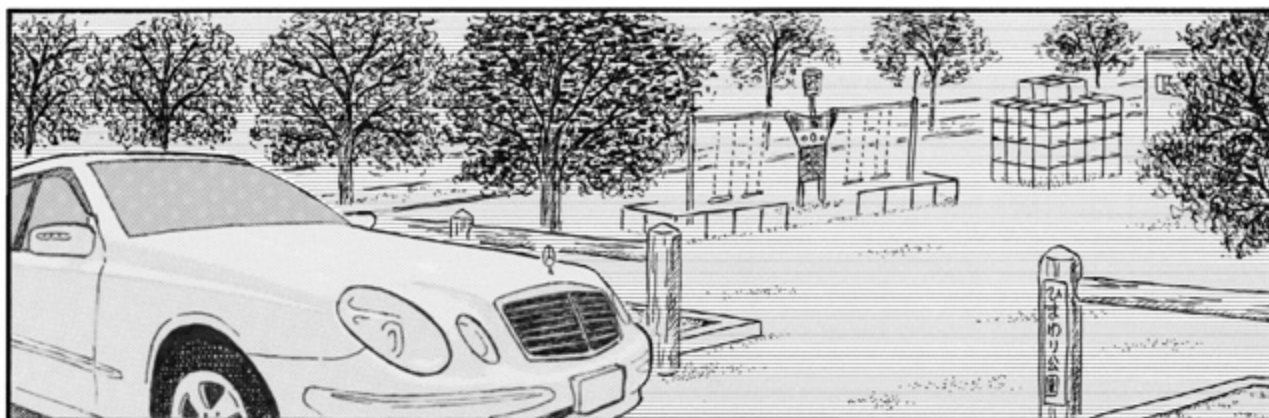


## 誘拐の方程式

— 後編 —







しかし  
木村と草薙2人と  
響子さんが  
誘拐されたと  
なる

顔見知り  
3人の  
偶然は通ら  
ない



捜査が進めば  
木村と草薙の2人が  
顔見知りだと  
言う事も  
わかるだろうが

それも  
偶然だと  
言い通すこと



だから  
響子さんは  
絶対警察に  
通報しないよう  
両親を説得  
するんだ

さてと



そうしないと  
今度は  
命を狙われる  
と――

響子!!



ふん



警察もしばらくは  
マークしている筈だから  
我々は  
絶対会わないし  
連絡も取らないこと



夏までは  
別荘も使わないと  
いうことだから

次にみんなが  
揃うのは  
来年の春だ



半年後の  
4月1日に  
ここで3億円と  
ご対面だ

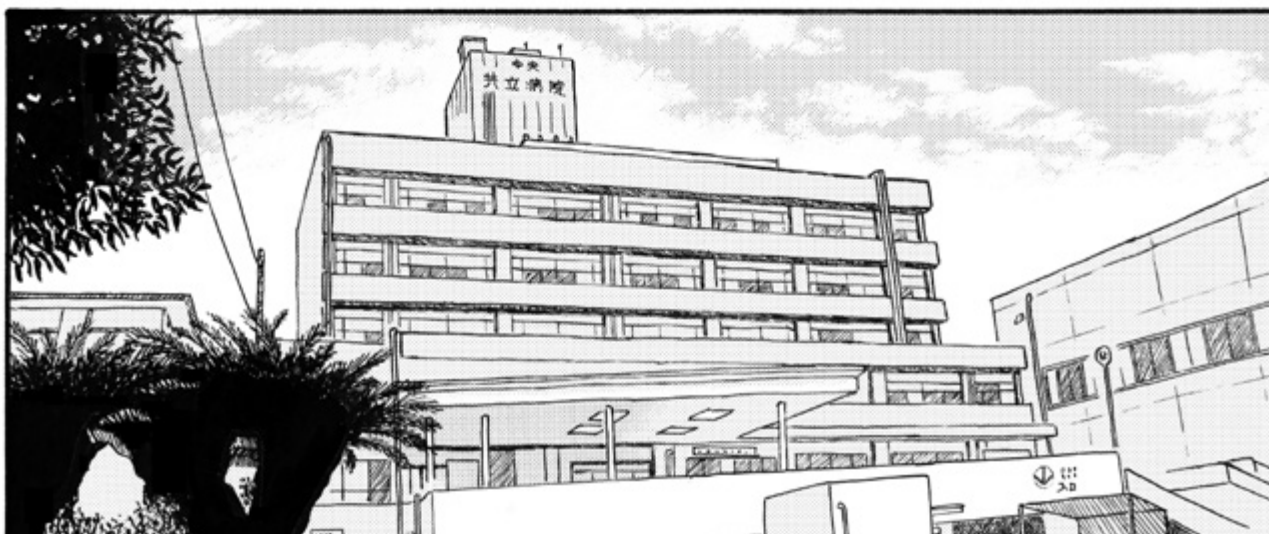














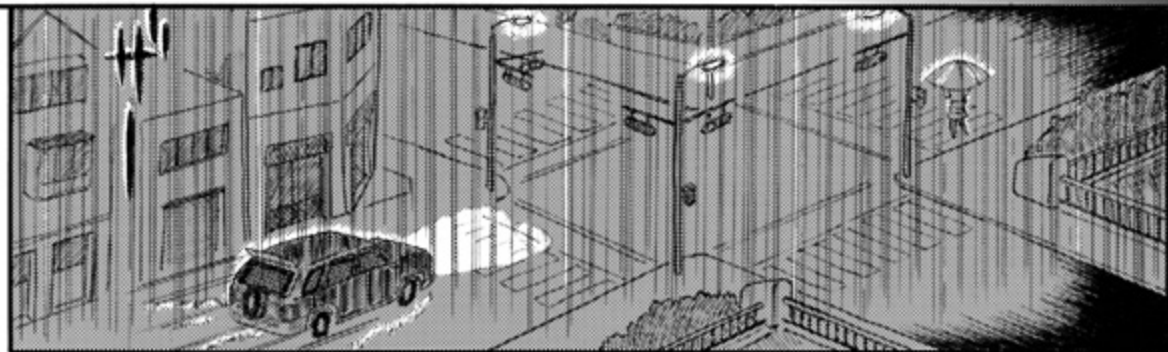
# 誘拐の 方程式

— 完結編 —

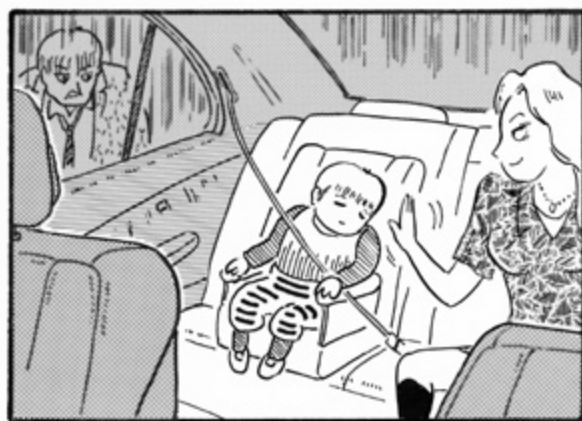
福 田 達 雄

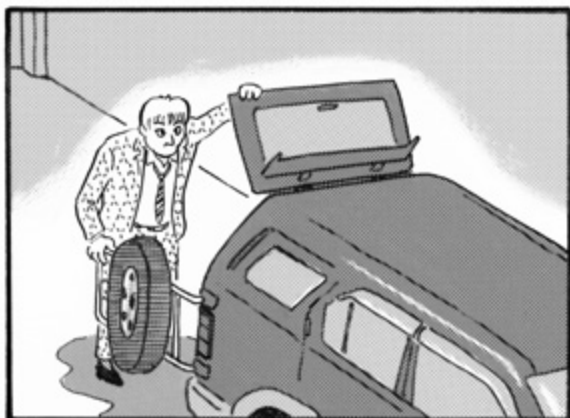
presents



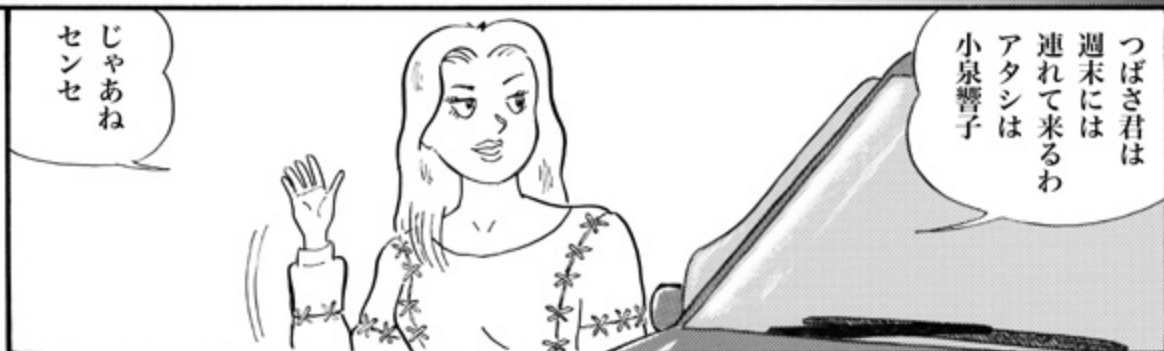




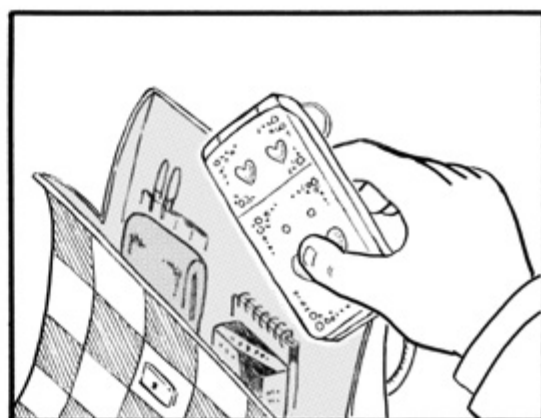
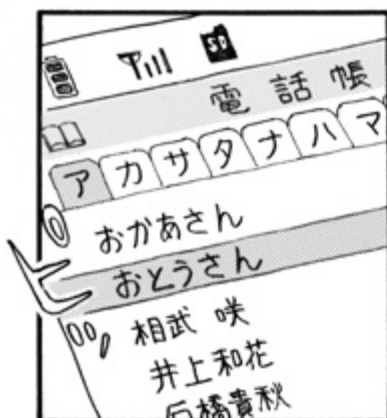
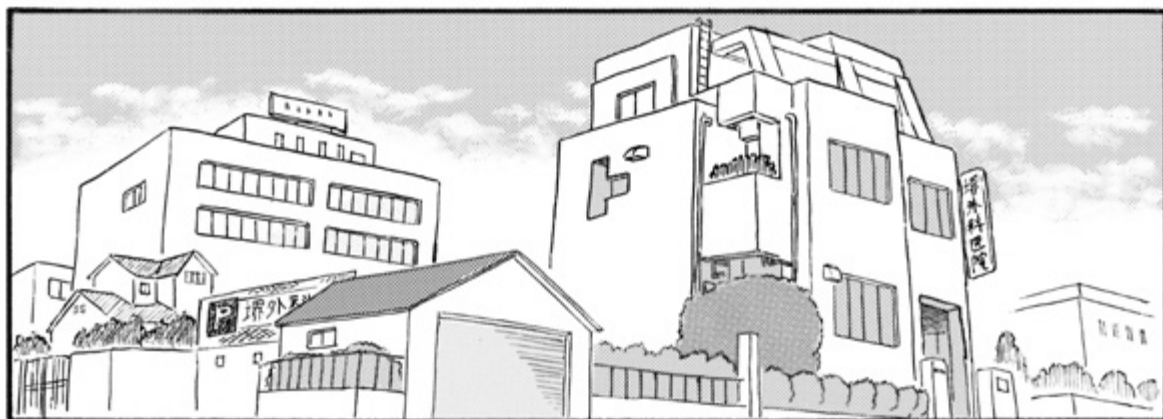


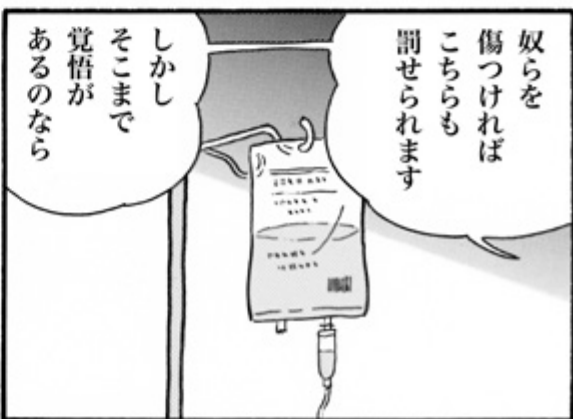






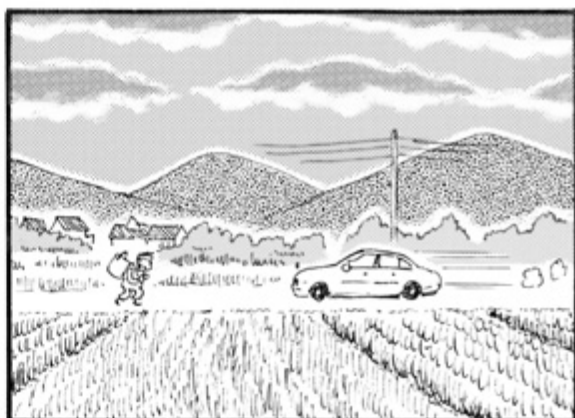


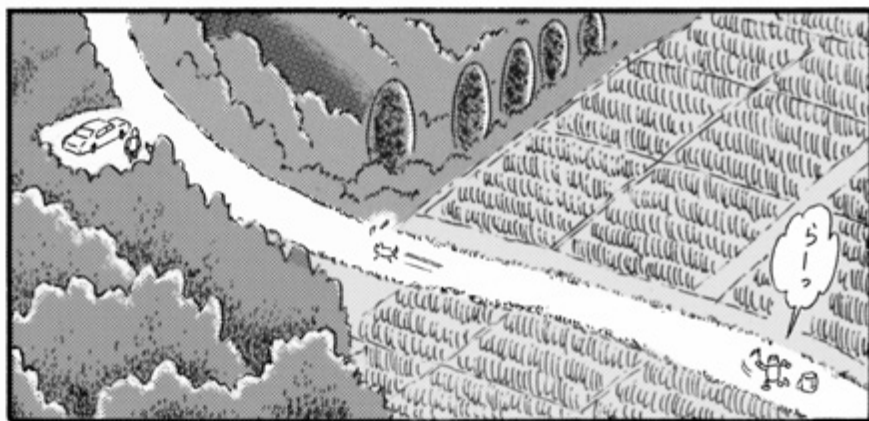
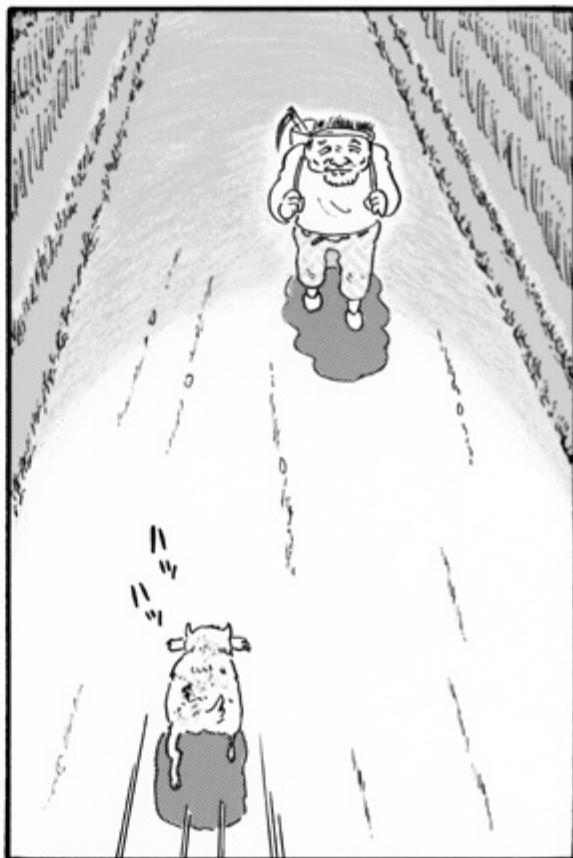


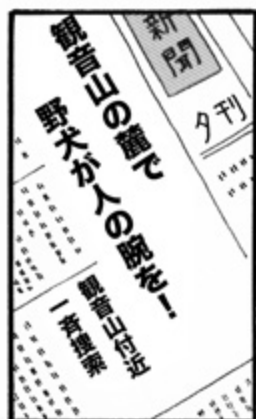


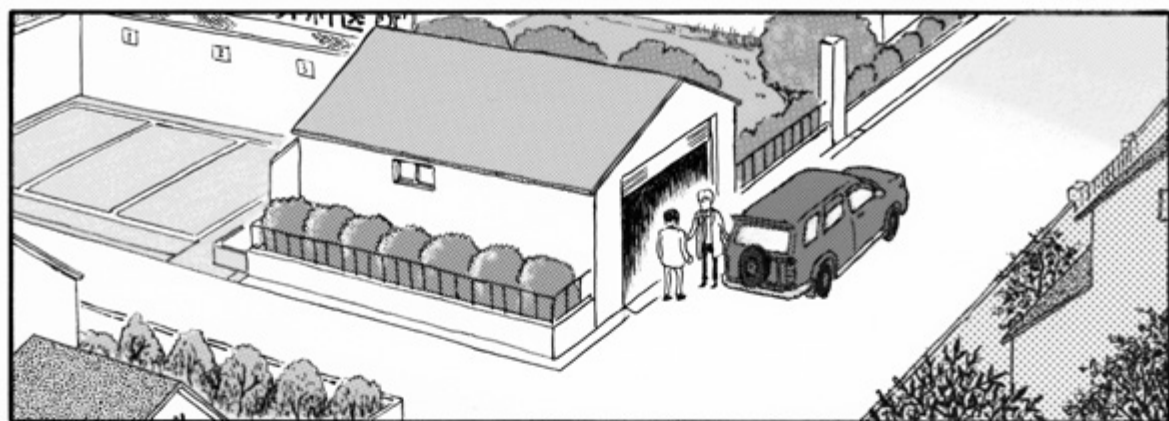








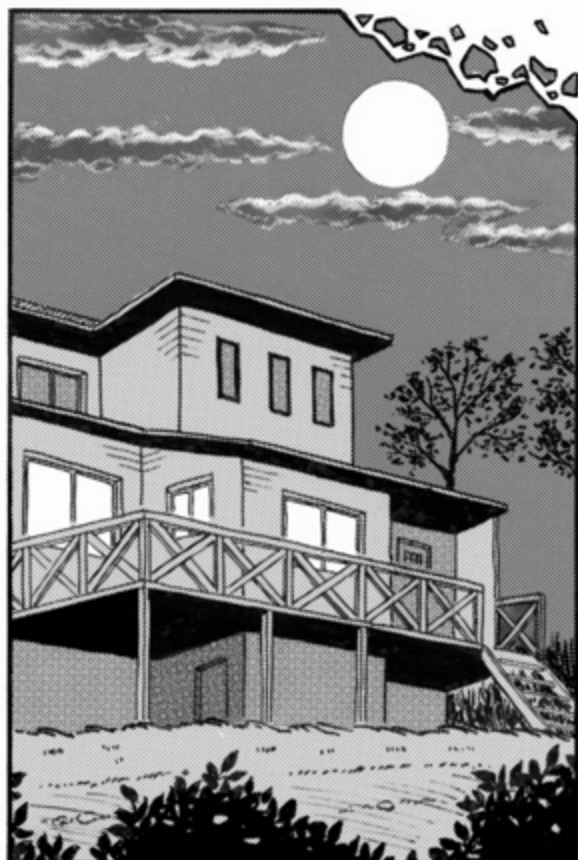


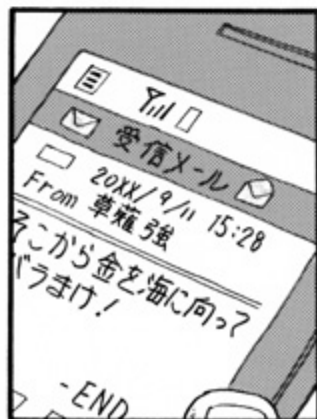
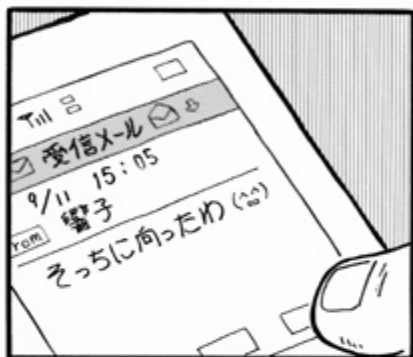
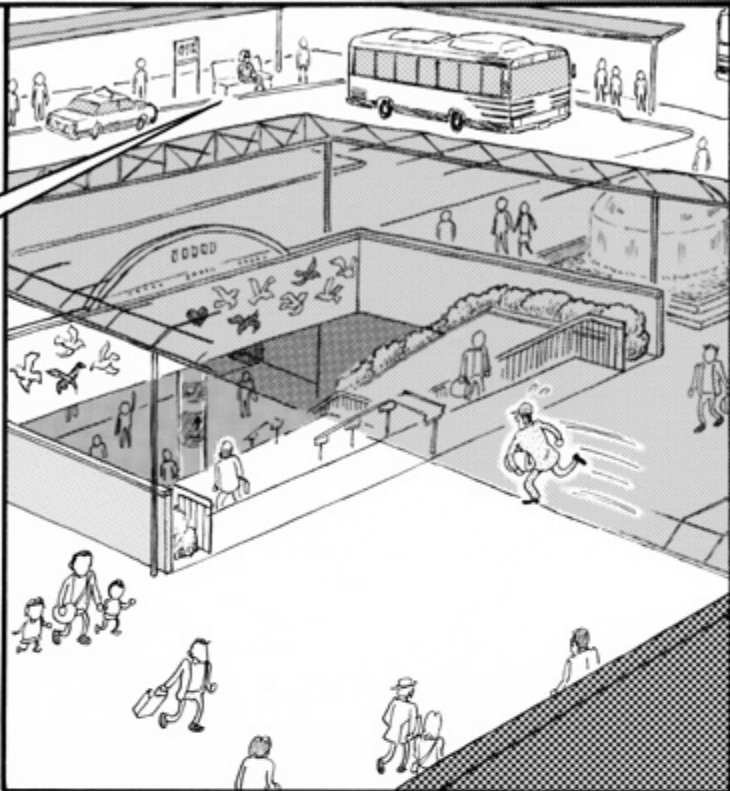
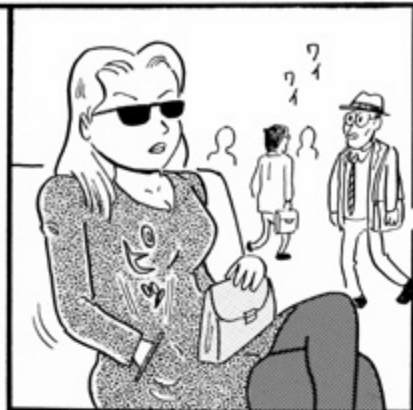




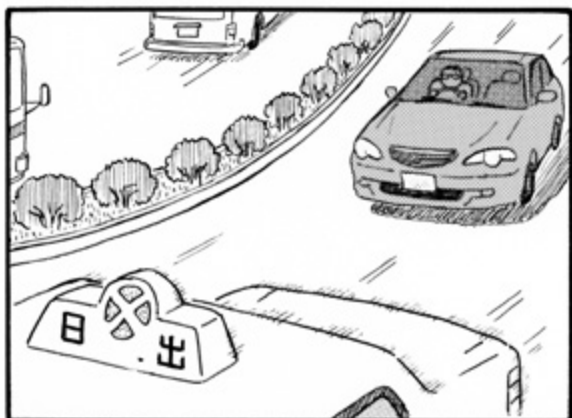


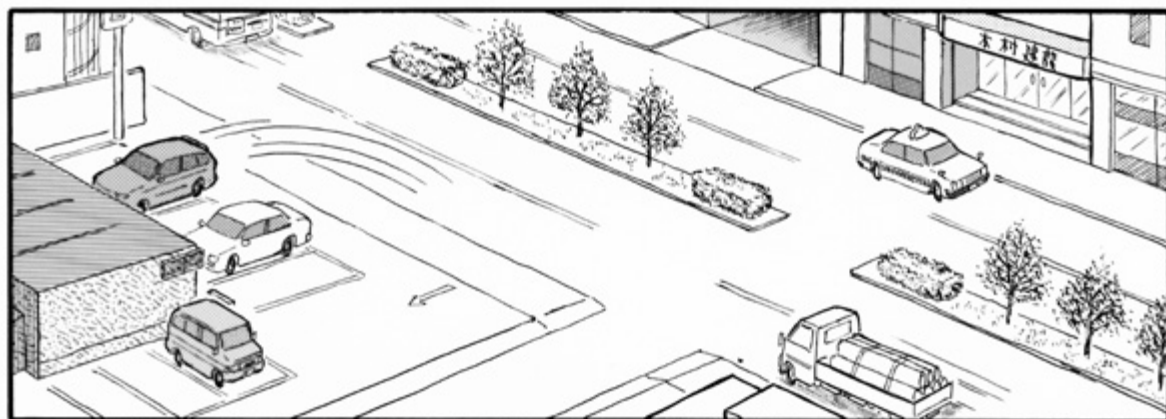
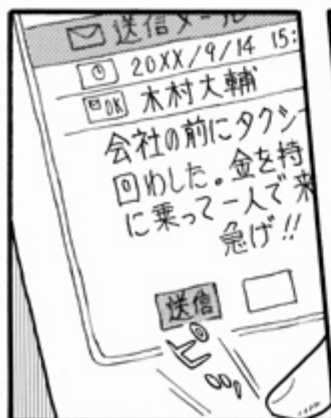


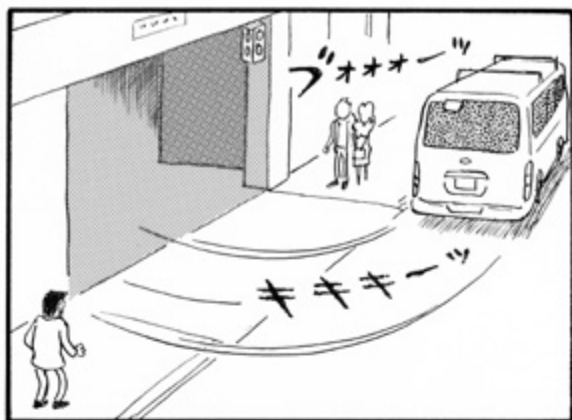
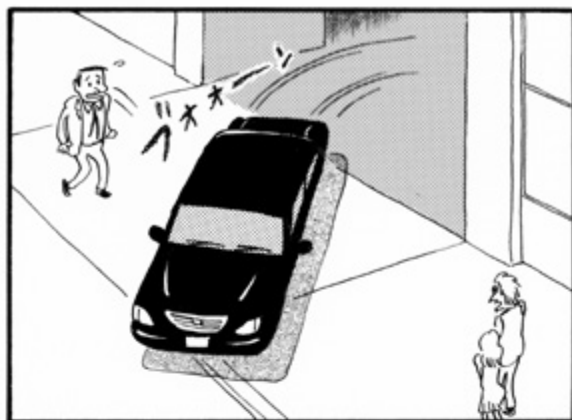




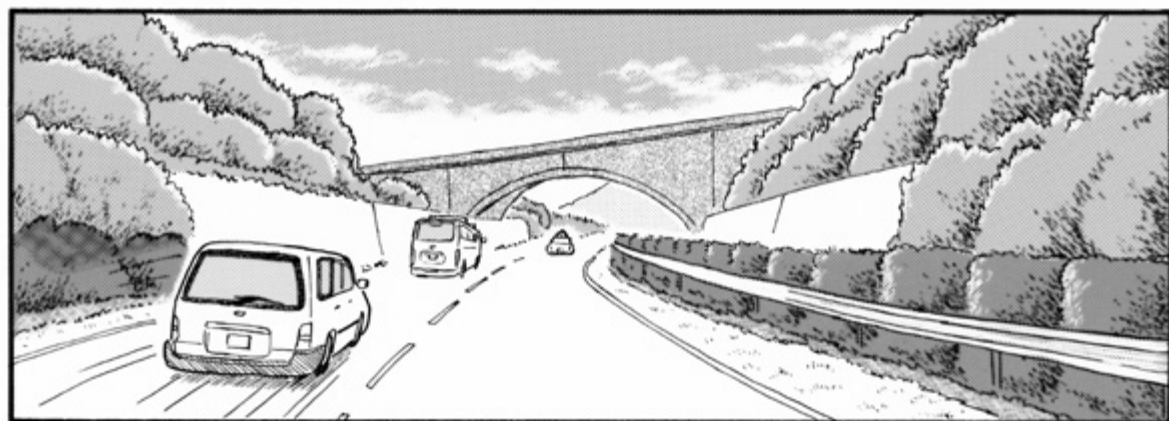


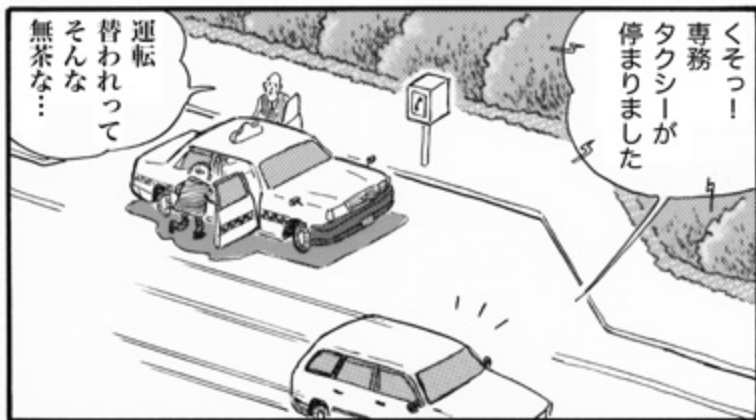


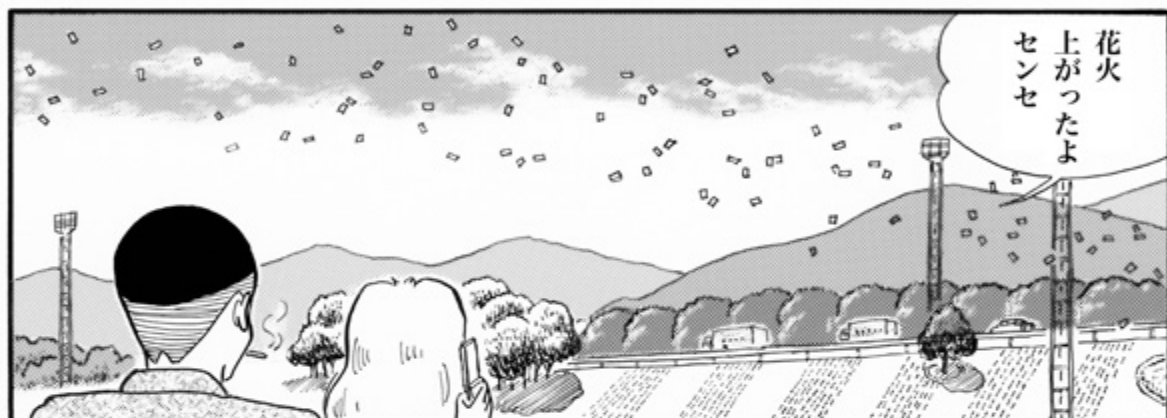


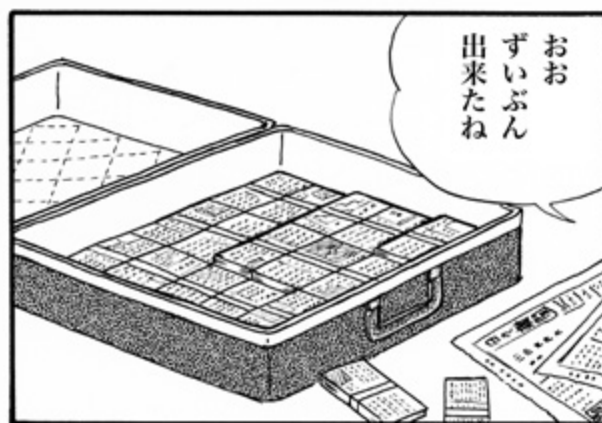




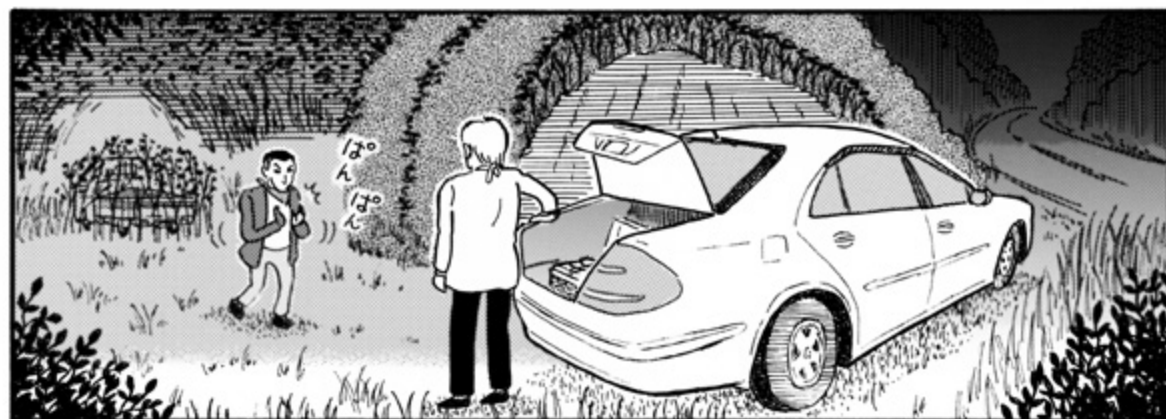
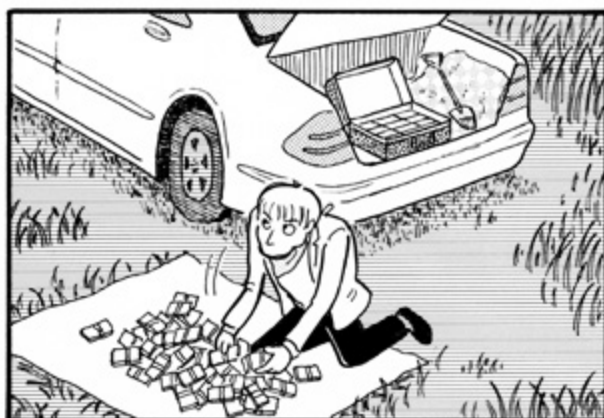
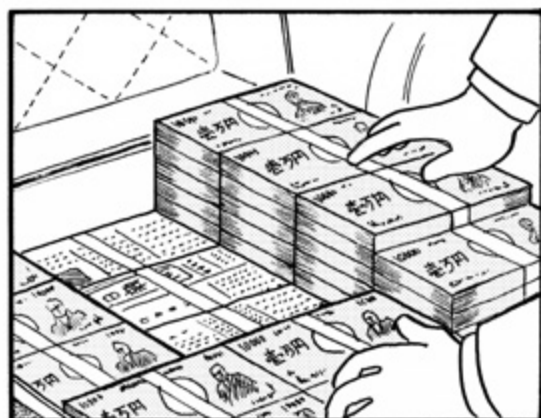


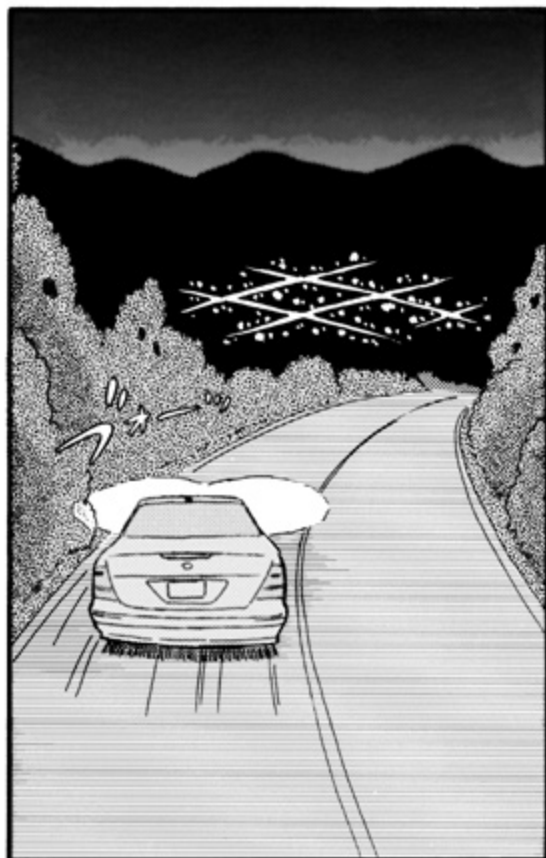
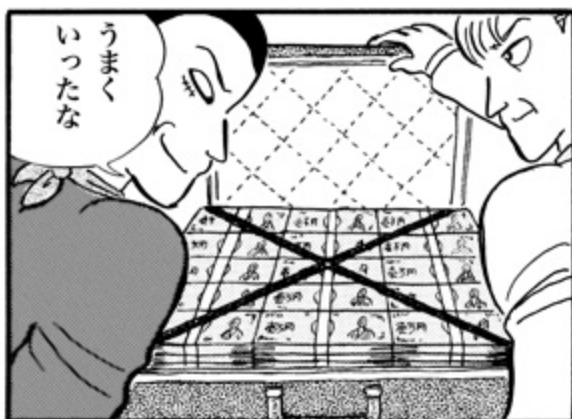
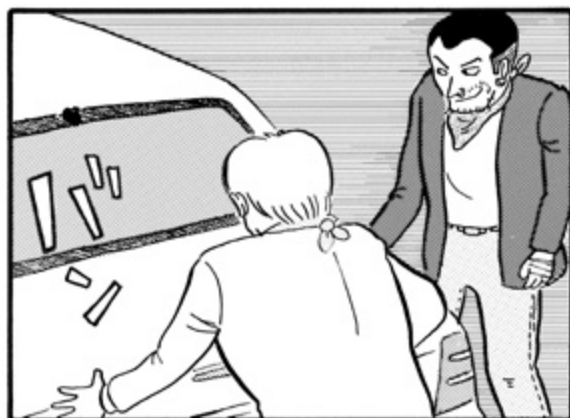


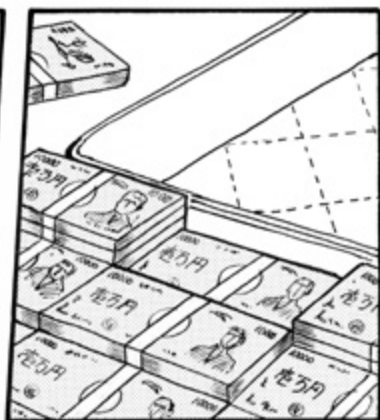
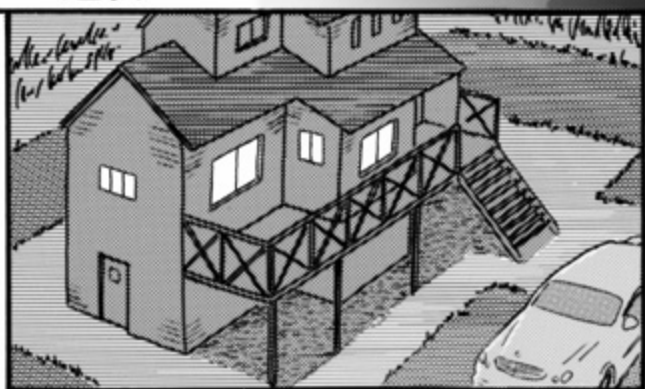




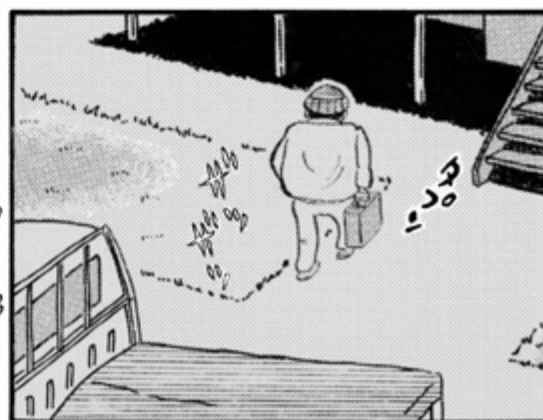
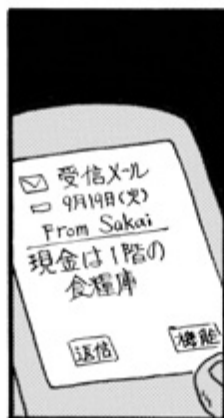


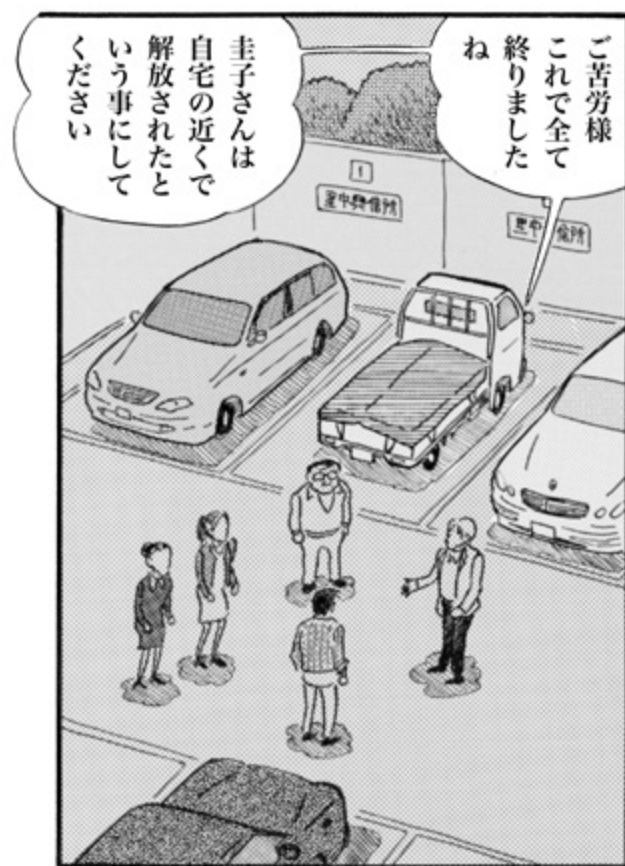
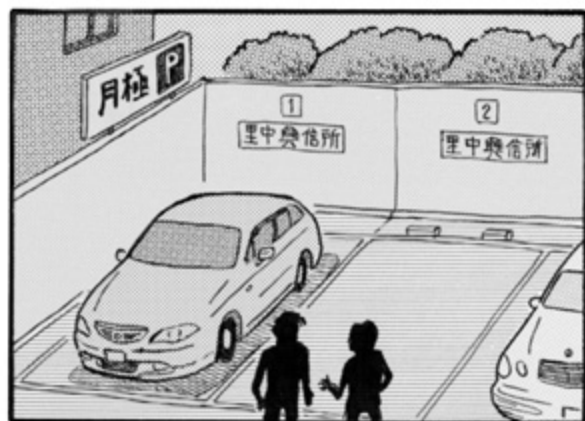














今朝の火事  
というのは  
あまりにも  
タイミングが  
よすぎる

それと  
あのおんな  
北川圭子が  
生きていたと  
いうことは

身代金を取る  
計画を成功  
させておいて  
オレ達を  
有頂天にさせ  
その後どん底に  
突き落とす

オレと草薙は  
小指と1億円を  
失い

小泉家は  
3億円を  
失った

そして  
3億円は全て  
燃やしちまった

これが  
ホントの  
先生の計画  
だったのか

あのおんな  
北川圭子との  
復讐だった  
のかよ

今更  
蒸し返したって  
金は戻らないし  
きつかけを作った  
オレ達は

表沙汰に  
することも  
出来ない

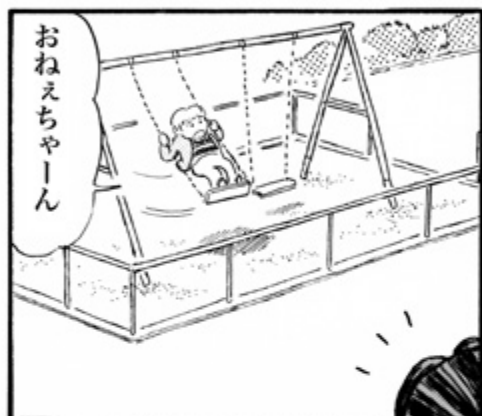
ふふっ  
まったく  
やってくれたな  
センセ！

オレ



9月23 (土) —エピローグ—





## 『誘拐の方程式』あとがき

本作は数年前、映画好きのぼくに映画のシナリオとして作られ、誘拐物でしたが身代金の受取り方法と結末が納得いかず本業の忙しさもあり未完のままにされていたものです。

漫画化しようと思ったのは山下氏のリクエストと阿久津氏のインタビューに触発され、それと作品の中の季節が偶然にも9月だったので何かの縁を感じ、下地があったとはいえ今考えれば無謀にも挑戦しました。

2010年8月初旬に細かいディテールを潰しつつ中旬からデジタルカメラをもってプチロケハンに出かけました。ロケをしているうちに身代金の受取り方法やエンディングを思いつき少しストーリーを修正しキャラクターもわざと俳優の名をアレンジしてキャラを作り直すことによって自分のテンションを上げ、結果キャラが一人歩きを始めユーモアも生まれ自分でも驚くくらい内容に幅が出てきたように思います。

キャラ設定はユーモアも無くシリアスなものでした。(熟成期間って必要なんですね)

完結編で伏線は潰していきますが、一つだけラストの里中がシルエットなのは、最初は協力者を里中にしていましたが、結末を後味がよくなるよう変更した為、圭子の父親にした方が自然かなと試行錯誤の結果のなごりです。

昔は漫画を描く場合に自分の描ける絵の範囲でストーリーを組み立てていたような所があったように思うけど、本作はもともと映画のシナリオのつもりだったので、絵のことは全く考えずやりたい放題の展開でした。

しかし漫画にするととなると車は何台も出てくる、女性(苦手)やインターチェンジも描かなくちゃならない。久々の悪戦苦闘でした。(デジカメと苦手なインターネットが大いに役立ちました)

ボクは昔から2度の下書きが癖で、本番の下書きで人物配置や表情、コマ割りまでが変わったりして、その分人より描くのが遅いんです。(それに昔は人物を1コマ1コマかっこよく描きすぎでした)

今回はページ数も多く雑になった部分もありますが、それが却って人間味が出たかなとも思ったりしてます。

スクリーントーンの乱用も本意ではなかったのですが、画力の落ちた稚拙な絵をごまかす為と、画風の性質上中篇から多用しました。

漫画を描いていた期間は十代中頃から二十代はじめの数年で、中でもストーリー物は10本にも満たなかったのですが、そんな中でこの作品が日の目をみるだけでなく漫画として生まれ、初めての長編を完成することができました。完成したから言えるのですが、作品を映画仕立てにしたりして、趣味的には結構楽しめました。

若干の無理もして描き上げたのには、ある種の意地というか、若い頃のくすぶったままの残り火を燃やしつくして本当に充実と満足感を味あわせていただきました。ありがとうございます。

最後に、シナリオを作るきっかけをくれた俳優の大久保貴光さん(現・リキプロ)と漫画化にするチャンスをいただいた山下幸雄・阿久津邦彦両氏に感謝します。

平成23年10月10日 福田達雄

